

# 科研費研究計画調書 書き方のポイント

2019/09/12

学術研究支援室

シニアリサーチ・アドミニストレーター

吉田南地区担当チームリーダー

古谷 真優美



京都大学



# 本日の内容

- 競争的研究費の2つのタイプ
- 科研費の評定要素
- 科研費研究計画調書の構成
- 評定要素と研究計画調書の関係

何を意識して、何をどのように書くべきか

- URAによるブラッシュアップの例

URAの視点

- KURAによる科研費申請支援

# 競争的研究費のタイプ

ボトムアップ型

トップダウン型

解決すべき課題



研究テーマ

解決すべき課題



研究テーマ

日本学術振興会 (JSPS)  
科学研究費助成事業

日本医療研究開発機構 (AMED)

科学技術振興機構 (JST)

**研究の学術的意義  
計画の実行可能性**

新エネルギー・  
産業技術総合開発機構 (NEDO)

# 科研費の評定要素

1. 研究課題の学術的重要性

研究の学術的意義  
scientific significance

2. 研究方法の妥当性

計画の実行可能性  
feasibility

3. 研究遂行能力及び研究環境の適切性

この3要素を4（優れている）、3（良好）、2（やや不十分）、  
1（不十分）に評価

これらの評定要素を考慮しつつ、4段階の総合評点を相対評価

# 研究計画調書の構成（若手研究・基盤C）

## － 評定要素との関係 －

### 1. 研究目的、研究方法など（3ページ）

メインのパート：研究の学術的意義／計画の実行可能性

### 2. 本研究の着想に至った経緯など（1ページ）

背景・独自性・創造性を文献を引用して客観的に示す（研究の学術的意義）、及び準備状況を記載することにより計画の実行可能性を示す補助的なパート

### 3. 応募者の研究遂行能力及び研究環境（2ページ）

1に次いで重要なパート。今までの研究履歴・業績、研究環境を記載することにより、「計画の実行可能性」を示す

### 4. 人権の保護及び法令等遵守への対応（1ページ）

研究倫理（必要なことを適切に記載する）

# 評定要素と研究計画調書の関係

## － 各項目での「指示書き」に注意しよう －

研究計画調書の指示書き（黒枠内）

### 1. 研究目的、研究方法など

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、

- (1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、
- (2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性、
- (3) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、  
について**具体的かつ明確に**記述すること。

→ **研究の学術的意義**

→ **計画の実行可能性**

# 評定要素と研究計画調書の関係

## － 各項目での「指示書き」に注意しよう －

研究計画調書の指示書き（黒枠内）

### 1. 研究目的、研究方法など

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、（1）本研究の**学術的背景**、研究課題の核心をなす学術的**「問い」**、（2）本研究の**目的**および学術的**独自性**と**創造性**、（3）本研究で**何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか**、について具体的かつ明確に記述すること。

**学術的背景**：今回提示する「問い」に対する背景を簡潔に記載

**「問い」**：研究分野全体を俯瞰した際の根本的な問い（目的の上位概念）

“key scientific question” comprising the core of the research plan

**独自性**：着眼点、発想、手法、などの独自性

**創造性**：本研究の過程や成果による学術の深化、他分野への波及、社会還元の可能性など

英語版標記 “scientific significance”

# 評定要素と研究計画調書の関係

## — 各項目での「指示書き」に注意しよう —

### 2 本研究の着想に至った経緯など

本欄には、(1)本研究の着想に至った経緯と準備状況、(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、について1頁以内で記述すること。

1項の背景の補足  
研究の学術的意義を  
再訴求

研究の学術的意義  
(論文を引用し、客観的に訴求)

計画の実行可能性  
(実験材料、評価系、  
協力体制、契約状況等)

### 3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には、応募者の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境(研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む)について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

**実行可能性：英語版標記**

to show the feasibility of the research plan by the applicant  
(Principal Investigator)



# URAによるブラッシュアップの例

(概要) 先生の初稿

背景

方法

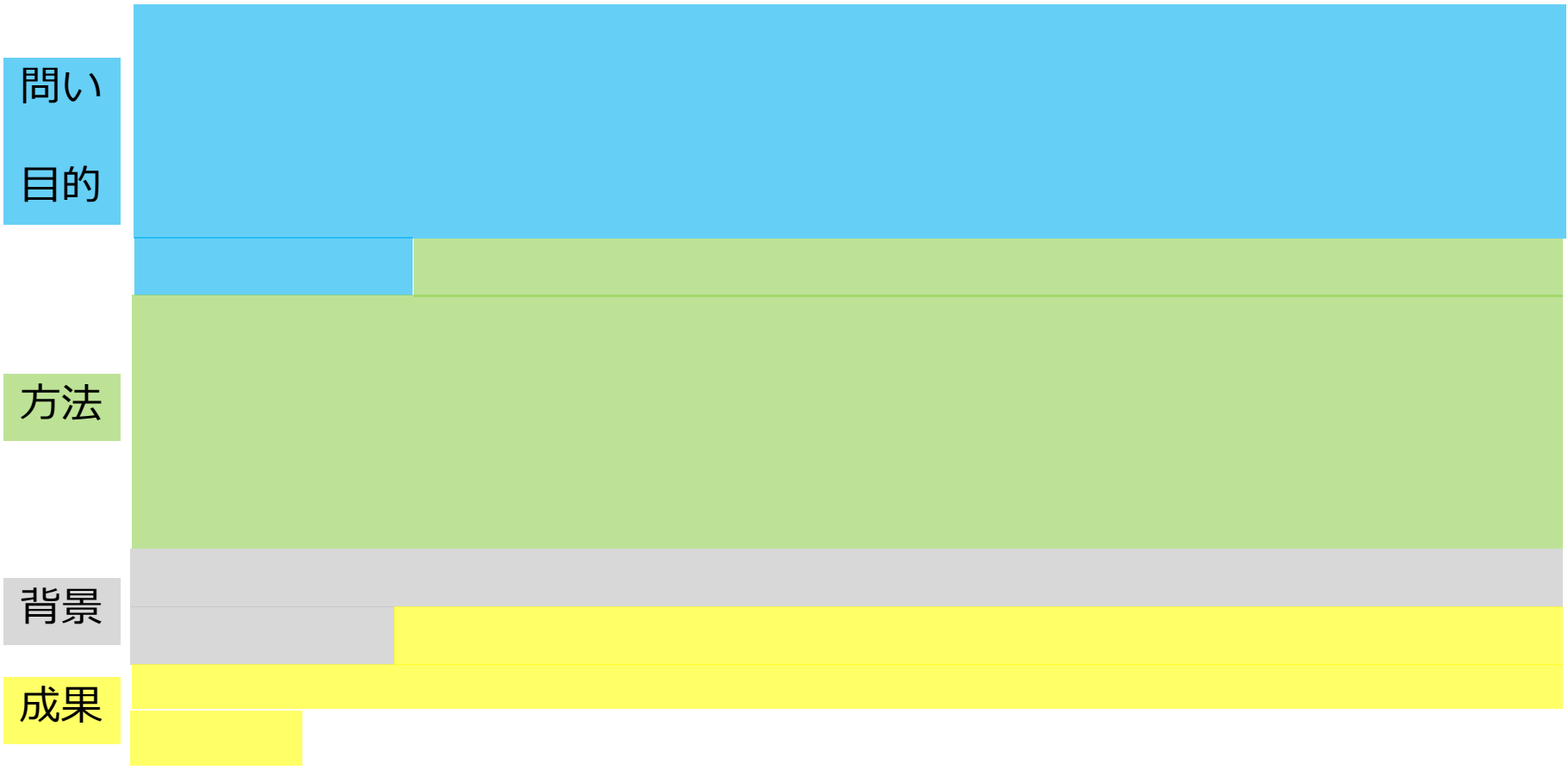
目的

URAの視点： 先生が本当にやりたいことは何だろう？

本研究で何がどこまで明らかになるのだろう？

# URAによるブラッシュアップの例

(概要) URAとの面談後の改訂版



「研究目的」、「研究の全体像」、「期待される研究成果」が明確  
⇒ 本研究の学術的意義、実現可能性を訴求

研究計画調書作成時に留意いただきたいこと

# 審査委員が先生の研究計画調書を1度読んで以下を理解できますか？

- 本研究は学術的に価値があるものか
- 研究目的が明確で、研究方法はそれを達成するに妥当か
- 研究代表者は本研究計画の遂行能力を有するか、研究環境は整っているか

⇒ **研究課題の学術的重要性・計画の実行可能性**

理解しやすさのために：

⇒ **研究計画調書全体として論理の一貫性**

# KURA令和2年度 科研費申請支援

- 科研費申請支援ポータル（科研費関連情報）

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/grant-writing-support/156>

[Link to English site]

- URAによる研究計画調書のブラッシュアップ

[https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/ku\\_only/510](https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/ku_only/510)

- ワークショップ・説明会

9月17日（火） 16-17時：初めての基盤B

9月20日（金） 15-17時：初めての科研費

Sep. 19 (Thu) 10am to 12am: KAKENHI September Seminar  
in English

- コンタクト先

吉田南地区 研究全般

[minami@kura.kyoto-u.ac.jp](mailto:minami@kura.kyoto-u.ac.jp)

科研費関連

[kakenhi-tf@kura.kyoto-u.ac.jp](mailto:kakenhi-tf@kura.kyoto-u.ac.jp)

KAKENHI/EN, Supports for foreign researchers

[support\\_rs@kura.kyoto-u.ac.jp](mailto:support_rs@kura.kyoto-u.ac.jp)

- KURA WEBSITE

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>